

菊地則雄・藤吉栄次・玉城泉也ら 2012. 絶滅危惧種紅藻アサクサノリの生育地. 藻類 60: 105.

菊地則雄・二羽恭介 2006. 東京湾多摩川河口干潟における絶滅危惧種アサクサノリ(紅藻)の生育状況とその形態. 藻類 54: 149-156.

菊地則雄・山田和彦・江良弘光・秋田晋吾・畠田智 2020. 神奈川県小網代干潟における絶滅危惧種紅藻アサクサノリの生育. 観音崎自然博物館研究報告 たたらはま 24: 6-11.

Miura, A. 1998. Taxonomic studies of *Porphyra* species cultivated in Japan, referring to their transition to the cultivated variety. J. Tokyo Univ. Fish. 75: 311-325.

三浦昭雄 1998. アサクサノリ. 水産庁(編)日本の希少な野生水生生物に関するデータブック. pp. 298-299. 社団法人日本水産資源保護協会, 東京.

Neefus, C., Mathieson, A. & Bray, T. 2008. The distribution, morphology, and ecology of three introduced Asiatic species of *Porphyra* (Bangiales, Rhodophyta) in the northwestern Atlantic. J. Phycol. 44: 1399-1414.

Niwa, K., Kato, A., Kobiyama, A., Kawai, H. & Aruga, Y. 2008. Comparative study of wild and cultivated *Porphyra yezoensis* (Bangiales, Rhodophyta) based on molecular and morphological data. J. Appl. Phycol. 20: 261-270.

Niwa, K. & Sakamoto, T. 2010. Allopolyploidy in natural and cultivated population of *Porphyra*. J. Phycol. 46: 1097-1105.

能登谷正浩 2004. アマノリ類. 大野正夫(編)有用海藻誌. pp. 160-200. 内田老鶴圃, 東京.

大西舞・菊地則雄・岩崎貴也・河口莉子・畠田智 2013. 絶滅危惧I類に指定されている紅藻アサクサノリの集団遺伝構造. 藻類 61: 87-96.

小路淳 2017. アマモ場における魚類群集構造の津波前後の比較. 日本水産学会誌 83: 664-667.

玉城泉也・藤吉栄次・小林正裕・岩出将英・金子輝・須田昌宏 2019. 岩手県以南の我が国各地から採集したソメワケアマノリ *Pyropia katadae* (紅藻綱ウシケノリ目)のDNA分析. DNA多型 27: 18-24.

玉置仁・村岡大祐 2011. 地震とそれにともない発生した津波が藻場・干潟生態系に及ぼした影響. 水環境学会誌 34: 400-404.

Tseng, C. K. & Chang, T. J. 1978. On two new *Porphyra* from China. Oceanol. Limnol. Sinica 9: 76-83.

吉田忠生・菊地則雄・吉永一男 1999. アサクサノリの野生個体群. 藻類 47: 119-122.

(2022年3月4日受付, 2022年10月7日受理)
 通信担当編集委員: 阿部 真比古



アオミドロ語誌 (2): アオミドロの初出と江戸時代の用例

仲田 崇志

『日本国語大辞典 2 版』に載ったアオミドロの用例は『語彙』(1871. 5 巻 52 丁表)が最古だが, 調べてみると江戸時代の文献にも用例が見つかった。

確認できた最古の例は、『雑字類編』(柴野栗山, 1764 序, 1786 刊)にある「アヲシドロ/陟釐/アヲサ」(6 巻 8 丁裏)であった(「シ」は「ミ」の誤写だろう)。「雑字類編」は節用集と同様に, 読みから漢字を引くための漢字辞書で, 「陟釐」(陟厘/ちよくり)は植物の中でも藻類の並びに掲載された。陟厘は平安時代からアオノリに当てられてきたが(詳細は『語誌 (3)』にまとめた), 林羅山(1583-1657)はこれを淡水藻(川の苔)とした(『新刊多識編』1631 刊. 2 巻 25 丁裏)。栗山(1736-1807)は 18 歳で林家に入門しており(『国書人名辞典』参照), 羅山の説を受けて陟厘を淡水藻のアオミドロに当てたのだろう。

『雑字類編』には各語の説明はなかったが, 『本草綱目啓蒙』(小野蘭山, 1803-1806 刊)では流水中石上に生える糸状のものを陟厘, 止水中や川の淀みに浮くものを水綿とし, 後者に「俗名アヲミドロ」(17 巻 1 丁裏)を当てた。以降, 『物品識名』(岡林清達・水谷豊文, 1809. 134 丁裏)や『本草図譜』(岩崎灌園, 1828 成立. 37 巻 15 丁表)などが水綿に「アヲミドロ」を当て, 明治時代にまで引き継がれていった。



『雑字類編』(柴野栗山, 1764 序, 1786 刊, 筆者蔵)。左, 書影(上, 上巻表紙。下, 下巻 6 巻 8 丁裏・9 丁表を示した)。右, 6 巻 8 丁裏の一部を拡大。「アラメ/海苔 アヲノリ/海苔 青-アマノリ/紫苔/アサクサノリ。一菜 アヲシドロ/陟釐/アヲサ」とある。